

情報 授業案

授業者

指導教諭

- 1 日時 2022年6月10日(金) 第6校時(14時20分~15時10分)
- 2 場所 コンピュータ教室
- 3 学年・組 第1学年3組(40名)
- 4 単元名 1章 情報社会 総括

5 単元の目標

社会の急激な情報化に伴い、新しく生まれた情報技術を知るとともに、情報技術に関連する法律を遵守する態度や法律で規制しきれないトラブルに、適切に対処する情報リテラシーと情報モラルを養う。

(学習指導要領 情報2内容 (1) 情報社会の問題解決 アイ)

6 教材観

使用教科書は「情報I Step Forward!」、赤堀侃司、東原義訓、坂元章、他29名著、令和3年3月10日検定済み、東京書籍。

本教科書は、見開き1ページごとに内容が独立しており、授業中のページ移動を減らし、生徒が学習しやすい環境を作ることができる。また、見開き1ページごとに独立しているが、1章の内容は一貫して情報技術の高度化とそれに関連したトラブルの危険性の2つのテーマに沿っている。毎時間の授業を通して、情報技術に対する知見を広めつつ、情報リテラシーや情報モラルを育むことができる構造になっている教科書である。

7 生徒観

これまでに生徒は、課題解決の方法、知的財産・権利、個人情報、情報に関連した法律とモラル、情報技術の進歩など、本教科書1章の、情報セキュリティを除いた全ての内容を学習している。

話し合いの時間を設けると、隣や近くの生徒と積極的に話し合おうとしている。話し合う時間と説明を聞く時間の切り替えに若干のタイムラグがあるため、話し合いの時間を終わる際は、教員に注意を向けさせる工夫が必要である。

8 指導観

メリハリのある授業になるように心がけている。教員が説明するときは、しゃべっている生徒がいない状況で説明を始め、必ず生徒全員の注意を教員に集めるようにする。教科書の理解させるべき内容の部分は真剣な姿勢で説明し、教科書の内容で、生徒に関連した話題を話す際は、声を上げ、明るい表情で話すようにする。

一貫して、生徒にとって、学習するのが楽しいという印象を残すとともに、教科書の内容で理解すべき点をしっかり生徒の頭に残すように徹底する。

9 単元の評価規準

観点	【A】 知識・技能	【B】 思考・判断・表現力	【C】 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 情報化にともなう技術の進歩や新しい技術を理解している。 ② 法や制度、権利、モラルについて理解している。	① 情報化にともなう技術の進歩や新しい技術が具体的にどんな場面で使用されるか考えられる。 ② 事件やトラブルに対して、法や制度、権利、モラルに基づいて、適切な判断、行動ができる。	① 積極的に他者と意見を交換し、自らの意見を再考している。

10 単元の指導と評価の計画（10時間）

時	学習活動および内容	主な評価規準
1	情報とその特性	・情報の特性を理解する
2	メディアとその特性	・メディアの特性を理解する。 ・情報の送り手と受け手側で情報が一致しない場合があることを理解する。
3	問題を解決する方法	・問題解決の手順を理解する。
4	情報の収集と分析	・情報収集の仕方を理解する。 ・収集した情報を適切に理解する。
5	解決方法の考察	・問題解決のためのフレームワークを使い、解決策の発想方法を理解する。
6	知的財産	・知的財産や著作権、産業財産権などの権利について理解する。
7	個人情報	・個人を特定する情報とは何かを理解する。 ・個人情報をどのように守るかを理解する。

8	情報モラルと個人の責任 情報技術の進歩と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・法律と制度を理解する。 ・法律では規制できない範囲は、情報モラルを持ち、個人で対応しなければならない事柄があることを理解する。 ・情報技術の進歩によって生まれた新しい技術を知るとともに、想定外のトラブルに対して個人で対応しなければならないことを理解する。
9	情報技術が社会に与える光と闇	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会で発生する問題がある一方で、人工知能が社会に利便性をもたらしていることを理解する。
10	第一章総括 問題解決の実践 情報技術の進歩と情報モラル 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のフレームワークを用いて問題の解決案を考察している。 ・情報技術の特徴を理解し、適切に活用しようとしている。 ・情報技術がもたらすトラブルを想定し、必要な制度やモラルを考察している。

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

問題解決にプロセスにおいて、現状分析を行なうためのフレームワーク「How ツリー(問題解決ロジックツリー)」を用いて、問題解決を実践する。

解決案として、10年後に実現されている、情報技術を用いた解決案を想像し、情報モラルの視点からその解決案を吟味する。

(2) 本時の評価規準

- ・情報技術による解決案が、その情報技術の特徴を活かしたものとなっている。
- ・想像した解決案に対し、既習した法律・権利・情報モラルの観点からどんなトラブルが起きそうか考察している。
- ・他の生徒と意見を交流し、自らの解決策に対して再度考察している。

時間	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準【観点】 (評価方法)
導入 (5) 分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ながら、既習事項を振り返る。 ・話し合うための4人一組のグループを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報技術、法と制度、情報モラルを中心に振り返る。 ・スライドにグループ分け 	

	・本時の目標と授業の進み方を理解する。	の図を明示して、速やかに認識させる。	
展開 (40) 分	目標：情報技術を活用した、10年後の新しい学習スタイルを考えよう		
	<p>教員の説明を聞く。</p> <p>① 現在、学習する上で困っていることを、フレームワークに書き出す。 ⇒3分間、個人で考え、書き出す。 ⇒4分間、グループで意見交流をする。</p> <p>教員の説明を聞く。</p> <p>② グループ内で一番解決したい困りごとを1つ決める。 ⇒1分間で決めきる。</p> <p>教員の説明を聞く。</p> <p>③ 今できる解決策を考え、どんな方法で解決するかを決める。 ⇒2分間、個人で考える ⇒2分間、グループで共有</p> <p>教員の説明を聞く。</p> <p>④ 10年後にはどんな解決方法があるか考える。 ⇒4分間、個人で考え、プリントに書き出す。 ※必要ならiPadで調べる。 ⇒4分間、グループで意見交流をする。 ※どんな情報技術を使った解決策が良いか、自分で考えた</p>	<p>・生徒の活動時間を多く取るため、説明は簡潔にする。</p> <p>・グループ活動では1人1分ほど話させる。</p> <p>・「皆が一番共感した悩みを選ぼう」というような声かけをし、決めるための判断軸を与える。</p> <p>・「ここからが本番」と言ったりするなど、生徒に授業の山場であることを伝え、雰囲気盛り上げる。</p> <p>・意見が出ていなさそうであれば声をかけ、iPadで解決案を調べるための検索キーワードなどを助言する。</p>	<p>・観察 C①○</p> <p>・観察 C①○</p> <p>・観察 A①B①○</p> <p>・観察 A①B①C①○</p>

	<p>案を再考する</p> <p>教員の説明を聞く。</p> <p>⑤ ④で発案した解決策を実施した場合、起こりうる問題を考える。 ⇒4分間、個人で考え、プリントに書き出す。 ⇒4分間、グループで意見交流をする。</p> <p>教員に選ばれた数名の生徒が自分の席で立ち、②～⑤で考えたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に解決策を実施する姿を想像させるよう助言する。 ・適宜教科書を見返させ、どんな事件、事例があったかを振り返らせる。 ・プリントの内容を把握し、論理性のある内容が書けているグループの生徒を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 A②B②○ ・観察 A②B②C①○
<p>まとめ (5) 分</p>	<p>教員のまとめの話を聞き、振り返りを記入する。</p> <p>振り返りの記入中に、プリントを提出する。</p>		<p>・プリント内容を見て、規準に沿って評価する。 A①②B①②C①○</p>

※ ○は記録に残さない評価（形成的評価）

※ ◎は記録に残す評価（総括的評価）

12 準備物

授業用スライド、プリント